

多賀城発で多賀城着。ヒト・コト・モノを届けます

「tag」は多賀城をもっとよまちにしていきたい、社会や地域のために何か活動したいという方を応援する月刊フリーペーパーです。



引き継ぎに「虎の巻」! 振り返りに使える



考案者の伊藤さん

「行事記録」を見ながらお話をいただきました。

町内会の行事や活動で撮った写真、その後どのように使われているのでしょうか。桜木北区町内会では、「行事記録」という冊子を今年度からつくっています。

きっかけは、現在町内会の保健衛生部長を務める伊藤幸義さんが役員になった時、引き継ぎの資料がほとんどなく行事の企画の際にとっても困ったこと。撮った写真やその他の資料をまとめておくことで引き継ぎをしやすくなると考え、実践に移しました。

写真のレイアウトが得意な役員の方とともに作成した「行事記録」、写真だけでなく行事のチラシや内容をまとめた資料なども一緒にとじられており、さながら報告書が資料集のようです。この冊子は、通常は町内会の集会所に置かれていて、利用の際に誰でも見ることができます。引き継ぎだけでなく、同じ地域に住む住民がどんな取り組みをしているのかわかることもできますね。

行事を開催するごとに新たなページが生まれ出されていく……実用的な目的ではじまったものですが、あとから振り返る楽しみも出てきます。

「見出し」もついて便利!

クリアファイルに、開催した行事の様子をまとめておられます。行事ごとに「見出し」をつけて、見やすくする工夫も。



会場のレイアウトがわかる写真など、準備中の資料もとじてあるので、あとから見て参考になります。

ヒント from “たがさぽPress”

たがさぽのブログから地域づくりに役立つ記事をご紹介します

詳しくはブログへ <http://blog.canpan.info/tagasapo/>

● 2040年の未来を予測「未来カルテ」 2017年11月14日(火)掲載
2040年の教育、医療、介護などの状況を各種統計データから予測するツール「未来カルテ」。自分のまちの未来の姿、のぞいてみませんか？

● 自販機が市民活動の情報発信に！？ 2017年11月23日(木)掲載
鉦路市では、市内の27カ所の自動販売機にデジタル掲示板「デジタルわっと」を設置し、市民活動や地域のイベント情報を配信しています。

● 多賀城双子サークル みらくる☆キッズ 2017年11月30日(木)掲載
双子を育てる悩みや喜びを参加者で共有しながら、親子で楽しく過ごせるような時間を目指して活動しています。双子・三つ子とその親が対象です。

“たがさぽPress”とは？

たがさぽスタッフによるブログ。興味が湧いたらたがさぽPressへ！ ＊ケータイ、スマホからご覧いただけます。



たがさぽからのお知らせ

たがさぽが企画する「一歩ふみだすきっかけ」をご紹介します

talk about TAGAJO

たがじょうのミライのことはなそう Vol.2 多賀城をもっとおもしろくするカギ

たがさぽ開館10周年を前に、ゲストとお話しながら多賀城の未来をひらくカギを一緒に探りましょう！今回のゲストは、各地で地域づくりに関わっている木村達海さん(東北学院大学工学部3年)と、若者目線から多賀城を盛り上げようとする取り組みをしている鈴木亜里紗さん(iRIS代表、高校3年)。多賀城を盛り上げたいと思っている方、「こうなるといいな」という思いを持っている方、ぜひご参加ください。

日時	2018年2月25日(日) 午前10時～午後12時30分
会場	多賀城市市民活動サポートセンター
参加費	500円(学生は無料)
定員	20名(先着順/要事前申込)
申込み	多賀城市市民活動サポートセンター窓口または電話にて
問合せ	022-368-7745(多賀城市市民活動サポートセンター)

参加者募集!

子どもたちに、科学を楽しむ場を！ 企業のCSR活動を知る 多賀城工場地帯連絡協議会

2017年10月15日(日)に多賀城市中央公民館において開催された「サイエンスデイ in 多賀城」。
このイベントの共催団体である「多賀城工場地帯連絡協議会(以下、多工連)」の関わりについてご紹介します。

「サイエンスデイ」とは？

2007年より東北大学を会場に、「科学ってそもそもなんだろう？」をテーマに科学を五感で感じるイベント「学都『仙台・宮城』サイエンスデイ」がNPO法人natural scienceの主催で開催されています。また、この活動の一環として、科学を切り口に地域を再発見する「ミニサイエンスデイ」が県内各所で行われています。多賀城では、多工連と中央公民館が連携して2016年にはじめて開催されました。2回目となった今回は、6つの講座と7つの見学体験プログラムが企画され、市内の小学生やその家族など約300人が参加しました。

多工連が伝えたいこと

多工連の会長である「ソニー(株)仙台テクノロジーセンター」の代表・大崎博之さんにお話を伺いました。

「東北大学でのサイエンスデイにイキイキと参加している子どもたちの姿を見て、多賀城の子どもたちにもより身近な場所で科学を楽しんでもらいたいと強く思ったことが、『サイエンスデイ in 多賀城』の立ち上げにつながりました。すでに科学の出前授業の経験がある会員企業のみなさんが一堂に会し、それぞれの特長を活かして「楽しみながら科学に触れてもらう場」を提供することができました。

今年度は会員企業に加え、産業技術総合研究所東北センター、宮城県産業技術総合センター、多賀城高校科学部にご協力いただき、前回よりも多彩なプログラムで開催できました。今後もこのサイエンスデイを継続し、できるだけ多くの子どもたちに参加してもらえよう、近隣市町も対象に含めて取り組んでいく予定です。

多賀城は、特色ある企業が多い科学技術のまちでもあります。企業の持つ科学技術を子どもたちに伝えることで、科学のおもしろさと企業のすばらしさを知り、多賀城の人材が育っていくことを願っています

「多賀城工場地帯連絡協議会」とは？

仙塩工場多賀城地区連絡協議会と多賀城市工場地帯防災協議会が統合し、2012年に設立されました。

会員は現在60社。会員・地域の安全・安心の向上に寄与することを目的に、市の防災・防犯活動の役割の一端を担うほか、全会員企業による地域清掃活動の推進、お祭りへの参加、そして子どもたちへの科学技術の普及など、積極的にまちづくりに取り組んでいます。



東北電力(株)

目に見えない電気の不思議さや働きについて実験を通して学びました。



理研食品(株)

わかめを見る・聞く・さわる・嗅ぐ・食べるの五感で体験。



(株)ユアテック

配線でつながれたホタルを点灯する遊びを通して電気の流れについて学びました。



ソニー(株)

工作キットで世界で一つのオリジナル乾電池づくり。



JXTGエネルギー(株)

原油を蒸留するとどうなる？(模擬実験)



ポリテクセンター宮城

ロウ粘土でキャンドルづくり。



ゼライス(株)

ゼラチン・コラーゲンを使って消化のしくみを学びました。



旭興産(株)

使い終わった乾電池や蛍光灯のゆくえんを学びました。

参加した子どもたちの感想

- 「科学にもいろいろなものがあるんだなあと考えた」
- 「理科はキライだったけど好きになった」
- 「わかめもオスとメスからできることをはじめて知った」
- 「電気はいろいろな人が協力して作っていることがわかった」
- 「乾電池の中がどうなっているのかがわかった」

参加企業からの感想

- 「『親子で学んで家庭での省エネに役立つ』などの感想があり、電気・エネルギーについて正しく学んでいただきました」【東北電力(株)】
- 「今年はいかに楽しんでもらいつつ、わかめや海藻の科学を伝えようかという部分にこだわりました」【理研食品(株)】
- 「カラダの中でのメカニズムを、ピーカーの中で再現できるように組み立てました」【ゼライス(株)】



「tag」には、多賀城(tagajo)の頭3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



「たがさぽ」ではTwitterもやっています。フォローお願いします！
@tagasapo



「たがさぽ」ホームページはこちら
<http://www.tagasapo.org/>